

平成23年度高鍋町事務事業評価表

◎事務事業の概要

事務事業名	「町民の日」記念式典事業(H22は口蹄疫のため未実施)		基本目標	町民が参画できる体制づくり		
担当課(局)・係	総務課	行政係	記入者	増田 浩史	評価者	間 省二
評価状況	<input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 評価対象外 ※評価対象外を選択した場合は、その理由を下段から選んでください					
	理由	<input type="checkbox"/> 法定受託事務である <input type="checkbox"/> H24年度以降実施しない <input type="checkbox"/> その他(※下段に理由を記入)				

◎事務事業の目的・内容

事業の目的	対象(誰を・何を) 高鍋町民						
	意図・目的 10月1日の町民の日に式典を挙行し、高鍋町民であることの誇りを再確認してもらう。						
事業の内容	町行政功労者への表彰、感謝状の授与						
22年度決算額		千円	23年度予算額	518	千円	事業従事者数 H22 0.00 人 H23 0.05 人	
主な支出項目		千円	国庫支出金		千円	22年度人件費 0 千円	
		千円	県支出金		千円	23年度人件費 343 千円	
		千円	地方債		千円	23年度予算額における一般財源の割合(H23) 100.0 %	
		千円	一般財源	518	千円	根拠法令・要綱等があれば記載してください	
町の補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 町単独補助 <input type="checkbox"/> 国県補助		補助事業名				
	補助交付団体		補助金要綱				
	22年度	補助額	#N/A 円	補助の形態	#N/A	23年度補助額	円 終期 年度
		団体の決算額	#N/A 円	昨年度までの補助金見直しの状況・検討委員会での決定事項等			
補助の割合		#N/A %					
	繰越額	#N/A 円					

◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	1 参加者数	より多くの町民に参加してもらい、町民の日の意義を認識してもらう。
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	1 被表彰者選考委員会	被表彰候補者のうちから、被表彰者を選考
	2	
	3	

◎達成状況

指標名	単位	21年度	22年度	23年度
		目標値	200	未実施
参加者数	人	200	未実施	
	実績値	200	未実施	
	達成率	100.0%	#VALUE!	
0	目標値			
	実績値			
	達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	
0	目標値			
	実績値			
	達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	
被表彰者選考委員会	目標値	1	1	1
	実績値	1	1	
	達成率	100.0%	100.0%	
0	目標値			
	実績値			
	達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	
0	目標値			
	実績値			
	達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	

事務事業名	「町民の日」記念式典事業(H22は口蹄疫のため未実施)	担当課(局)	総務課
-------	-----------------------------	--------	-----

◎事務事業の評価

	評価する項目	点数		
		自己評価	委員評価	
妥当性 (必要性)	町が行うべき事業である。 事業目的上は、その必要性は十分に高いと思われるが、式典の認知度がそれほど高くない現状においては、事業廃止による影響もそれほど生じないと思われる。	◎目的からして町が行うべきか	2	-
		◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか	2	-
		◎社会情勢(住民ニーズ)に適應しているか	0	-
		◎事業廃止による影響があるのか	1	-
有効性	町政功労者等への表彰が式典の中核を成している現状においては、事業目的に合致した成果が得られているか疑問が残る。(廃止あるいは規模を縮小してもよいのではという意見もある。) 目に見える成果を得るためには、事業の見直しが不可欠である。	◎目標に対して成果は得られているか	0	-
		◎すでに目的は達成されていないか	2	-
効率性	事業の実施に当たっては、常に効率性を重視しており、活動量の効果は上がっていると認識している。 費用対効果については、効果が表れにくいので、測定が難しい。	◎活動量の効果は実際に上がっているか	2	-
		◎費用対効果が十分に認められるか	1	-
協働性	「式典」の主体がどうあるべきかの捉え方にもよるが、形態によっては協働による実施も可能と思われる。	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	1	-
		合計(最高18点)	11	-

※町補助をしている場合のみ記入

公益平性 (公益性)	◎公益性が高いか ※公益性:不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与していること			-
	◎行政では対応できない部分を、補助事業がカバーしているか			-
	◎町民の理解が得られる事業であるか			-
		合計(最高4点)	0	-
その他				

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	◎担当者の方針に対する評価者としての所見 ◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等	H22年度は口蹄疫のため、式典を中止したが、本年度は110周年となるため、少し拡充して行なう。4つの事業を記念式典として位置づける。	今後の方向性				
			拡充				
			現状維持	○			
			縮小				
			廃止				
				廃止	縮小	現状維持	拡充
				コスト			

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	◎町民の日の意識付けが高まるよう検討すべきである。 ◎町民が参加しやすい環境づくり(曜日設定など)を検討すべきである。 ◎事業としては規模を縮小しても継続すべきと考える。 ◎今年が110周年であるが、節目以外の場合は、縮小していてもいいのではないかと。 ◎町民の日式典と灯籠まつりを同日に開催するのはどうだろうか。
	コスト	現状維持	
	委員評価	-	
	外部評価	-	